

外来魚等の分布拡大状況に関するアンケート

記入日：令和4年 月 日

漁協名： 漁業協同組合 記入者氏名：

◎アンケートの回答方法についてお聞きします。当てはまる記号に○を付けてください。

問 . アンケートはどちらの方法で回答しましたか？

a. アンケート用紙での回答

b. web からの回答

- ・ アンケートには、「アンケート用紙に記入する方法」か、「web から回答する方法」のどちらかで回答してください。
- ・ 「a. アンケート用紙での回答」を選ばれた方は、次ページからのアンケートに回答を記入し、アンケート用紙を返信用封筒に入れて郵送してください。
- ・ 「b. web からの回答」を選ばれた方は、上記の質問に回答し、アンケート用紙を返信用封筒に入れて郵送してください。

◎管轄されている内水面における外来魚等の分布拡大状況についてお聞きします。

問 . 管轄されている共同漁業権の番号をすべてお書きください（例：内共第 1 号）。
漁場が、第五種共同漁業権の対象でない場合（琵琶湖、霞ヶ浦、八郎潟等）は、
漁業権番号の記入欄に河川湖沼名と主たる地点名をお書きください。

漁業権番号①	号
漁業権番号②	号
漁業権番号③	号
漁業権番号④	号
漁業権番号⑤	号
漁業権番号⑥	号
漁業権番号⑦	号
漁業権番号⑧	号

2.【チャネルキャットフィッシュ】についてお聞きます。当てはまる記号に○を付けてください。（漁業権や河川湖沼の主たる地点が複数あり、チャネルキャットフィッシュの生息状況が同じ場合は、漁業権番号回答欄に漁業権番号や河川湖沼名と主たる地点名をまとめて記入してください。）

漁業権番号等： _____ 号

問1. 漁業権の範囲におけるチャネルキャットフィッシュの生息状況の確認

- a. 現在生息している b. 過去に生息していたが現在は生息していない
c. これまで生息は確認されていない d. 生息しているかは不明

『a. 現在生息している』と回答された方のみ、以下の質問にご回答ください。

問2. チャネルキャットフィッシュが生息していると回答された理由

- a. 水産研究機関（水試等）による調査 b. 漁業者や遊漁者による報告
c. その他（ _____ ）

問3. チャネルキャットフィッシュの生息数の動向

- a. 増えている b. 減っている c. 変わらない d. 不明

問4. 初めてチャネルキャットフィッシュが確認された時期

- a. 1971～1980 年（昭和 46～55 年） b. 1981～1990 年（昭和 56～平成 2 年）
c. 1991～1995 年（平成 3～7 年） d. 1996～2000 年（平成 8～12 年）
e. 2001～2005 年（平成 13～17 年） f. 2006～2010 年（平成 18～22 年）
g. 2011～2015 年（平成 23～27 年） h. 2016～2020 年（平成 28～令和 2 年）
i. 2021 年（令和 3 年）以降

漁業権番号等： _____ 号

問1. 漁業権の範囲におけるチャネルキャットフィッシュの生息状況の確認

- a. 現在生息している b. 過去に生息していたが現在は生息していない
c. これまで生息は確認されていない d. 生息しているかは不明

『a. 現在生息している』と回答された方のみ、以下の質問にご回答ください。

問2. チャネルキャットフィッシュが生息していると回答された理由

- a. 水産研究機関（水試等）による調査 b. 漁業者や遊漁者による報告
c. その他（ _____ ）

問3. チャネルキャットフィッシュの生息数の動向

- a. 増えている b. 減っている c. 変わらない d. 不明

問4. 初めてチャネルキャットフィッシュが確認された時期

- a. 1970～1980 年（昭和 45～55 年） b. 1981～1990 年（昭和 56～平成 2 年）
c. 1991～1995 年（平成 3～7 年） d. 1996～2000 年（平成 8～12 年）
e. 2001～2005 年（平成 13～17 年） f. 2006～2010 年（平成 18～22 年）
g. 2011～2015 年（平成 23～27 年） h. 2016～2020 年（平成 28～令和 2 年）
i. 2021 年（令和 3 年）以降

(漁業権や河川湖沼の主たる地点が複数あり、ブラウントラウトの生息状況が同じ場合は、漁業権番号回答欄に漁業権番号や河川湖沼名と主たる地点名をまとめて記入してください。)

問1. 漁業権の範囲におけるブラウントラウトの生息状況の確認

- a. 現在生息している b. 過去に生息していたが現在は生息していない
- c. これまで生息は確認されていない d. 生息しているかは不明

問2. ブラウントラウトが生息していると回答された理由

- a. 水産研究機関（水試等）による調査 b. 漁業者や遊漁者による報告
c. 放流（放流開始年： 年） d. その他（ ）

a. 増えている b. 減っている c. 変わらない d. 不明

a. 1970 年（昭和 45 年）以前
b. 1971～1980 年（昭和 46～55 年）
c. 1981～1990 年（昭和 56～平成 2 年）
d. 1991～2000 年（平成 2～12 年）
e. 2001～2005 年（平成 13～17 年）
f. 2006～2010 年（平成 18～22 年）
g. 2011～2015 年（平成 23～27 年）
h. 2016～2020 年（平成 28～令和 2 年）
i. 2021 年（令和 3 年）以降
j. 放流開始と同じ時期

問1. 漁業権の範囲におけるブラウントラウトの生息状況の確認

- a. 現在生息している b. 過去に生息していたが現在は生息していない
c. これまで生息は確認されていない d. 生息しているかは不明

問2. ブラウントラウトが生息していると回答された理由

- a. 水産研究機関（水試等）による調査 b. 漁業者や遊漁者による報告
c. 放流（放流開始年： 年） d. その他（ ）

a. 増えている b. 減っている c. 変わらない d. 不明

a. 1970 年（昭和 45 年）以前
b. 1971～1980 年（昭和 46～55 年）
c. 1981～1990 年（昭和 56～平成 2 年）
d. 1991～2000 年（平成 2～12 年）
e. 2001～2005 年（平成 13～17 年）
f. 2006～2010 年（平成 18～22 年）
g. 2011～2015 年（平成 23～27 年）
h. 2016～2020 年（平成 28～令和 2 年）
i. 2021 年（令和 3 年）以降
j. 放流開始と同じ時期

4.【ミズワタクチビルケイソウ】についてお聞きします。当てはまる番号に○を付けてください。（漁業権や河川湖沼の主たる地点が複数あり、ミズワタクチビルケイソウの分布状況が同じ場合は、漁業権番号回答欄に漁業権番号や河川湖沼名と主たる地点名をまとめて記入してください。）

漁業権番号等： _____ 号

問1. 漁業権の範囲におけるミズワタクチビルケイソウの分布

- a. すでに確認されている b. 過去に確認されていたが現在は確認されていない
c. まだ確認されていない d. 分布しているかは不明

『a. すでに確認されている』と回答された方のみ、以下の質問にご回答ください。

問2. ミズワタクチビルケイソウが確認されていると回答された理由

- a. 水産研究機関（水試等）による調査 b. 漁業者や遊漁者による報告
c. その他（ _____ ）

問3. ミズワタクチビルケイソウの分布範囲の動向

- a. 拡大している b. 縮小している c. 変わらない d. 不明

問4. 初めてミズワタクチビルケイソウが確認された時期

- a. 2005年（平成17年）以前 b. 2006～2012年（平成18～24年）
c. 2013～2017年（平成25～29年） d. 2018～2019年（平成30年～令和1年）
e. 2020年（令和2年） f. 2021年（令和3年） g. 2022年（令和4年）
.....

漁業権番号等： _____ 号

問1. 漁業権の範囲におけるミズワタクチビルケイソウの分布

- a. すでに確認されている b. 過去に確認されていたが現在は確認されていない
c. まだ確認されていない d. 分布しているかは不明

『a. すでに確認されている』と回答された方のみ、以下の質問にご回答ください。

問2. ミズワタクチビルケイソウが確認されていると回答された理由

- a. 水産研究機関（水試等）による調査 b. 漁業者や遊漁者による報告
c. その他（ _____ ）

問3. ミズワタクチビルケイソウの分布範囲の動向

- a. 拡大している b. 縮小している c. 変わらない d. 不明

問4. 初めてミズワタクチビルケイソウが確認された時期

- a. 2005年（平成17年）以前 b. 2006～2012年（平成18～24年）
c. 2013～2017年（平成25～29年） d. 2018～2019年（平成30年～令和1年）
e. 2020年（令和2年） f. 2021年（令和3年） g. 2022年（令和4年）

問1. 漁業権の範囲におけるミズワタクチビルケイソウの分布

- a. すでに確認されている b. 過去に確認されていたが現在は確認されていない
c. まだ確認されていない d. 分布しているかは不明

『a. すでに確認されている』と回答された方のみ、以下の質問にご回答ください。

問2. ミズワタクチビルケイソウが確認されていると回答された理由

- a. 水産研究機関（水試等）による調査 b. 漁業者や遊漁者による報告
c. その他（ _____ ）

問3. ミズワタクチビルケイソウの分布範囲の動向

- a. 拡大している b. 縮小している c. 変わらない d. 不明

問4. 初めてミズワタクチビルケイソウが確認された時期

- a. 2005年（平成17年）以前 b. 2006～2012年（平成18～24年）
c. 2013～2017年（平成25～29年） d. 2018～2019年（平成30年～令和1年）
e. 2020年（令和2年） f. 2021年（令和3年） g. 2022年（令和4年）

問1. 漁業権の範囲におけるミズワタクチビルケイソウの分布

- a. すでに確認されている b. 過去に確認されていたが現在は確認されていない
c. まだ確認されていない d. 分布しているかは不明

『a. すでに確認されている』と回答された方のみ、以下の質問にご回答ください。

問2. ミズワタクチビルケイソウが確認されていると回答された理由

- a. 水産研究機関（水試等）による調査 b. 漁業者や遊漁者による報告
c. その他（ _____ ）

問3. ミズワタクチビルケイソウの分布範囲の動向

- a. 拡大している b. 縮小している c. 変わらない d. 不明

問4. 初めてミズワタクチビルケイソウが確認された時期

- a. 2005年（平成17年）以前 b. 2006～2012年（平成18～24年）
c. 2013～2017年（平成25～29年） d. 2018～2019年（平成30年～令和1年）
e. 2020年（令和2年） f. 2021年（令和3年） g. 2022年（令和4年）

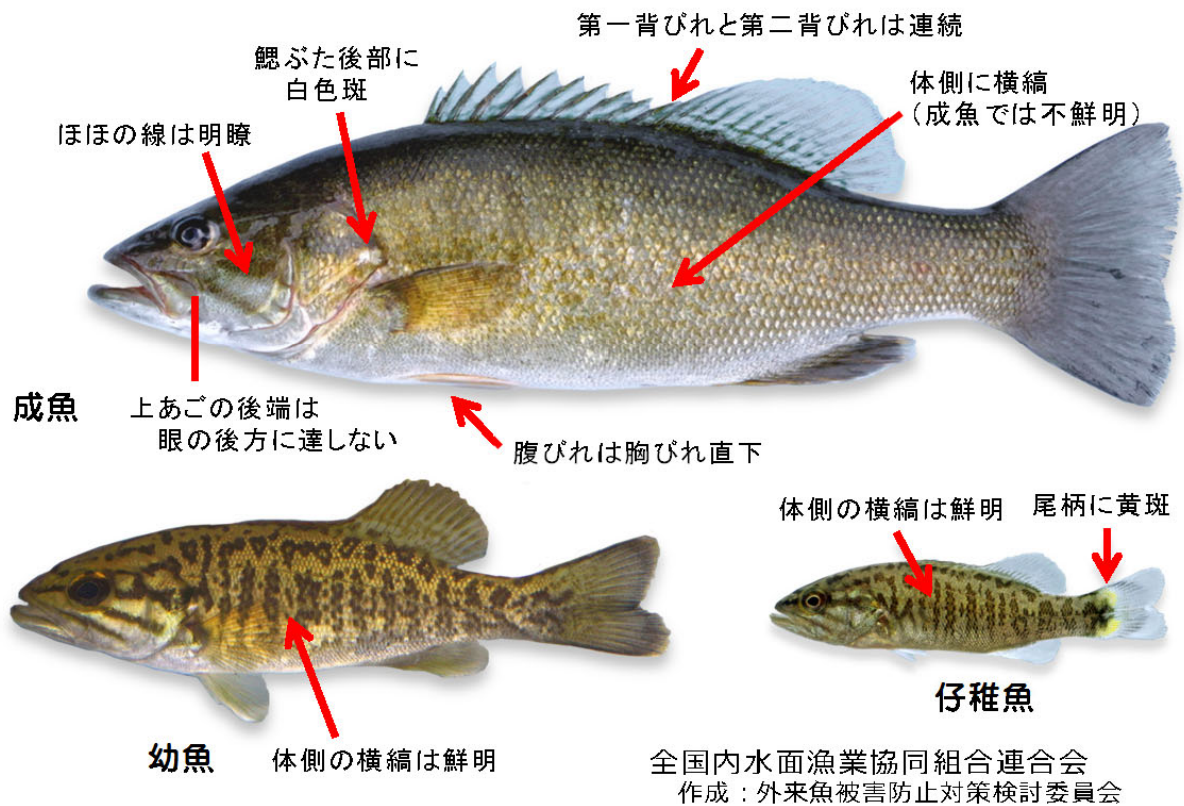
以上でミズワタクチビルケイソウのアンケートは終了です。ご協力頂き、ありがとうございました。

【コクチバス・オクチバスの見分け方】 全国内水面漁業協同組合連合会資料

コクチバス

Micropterus dolomieu

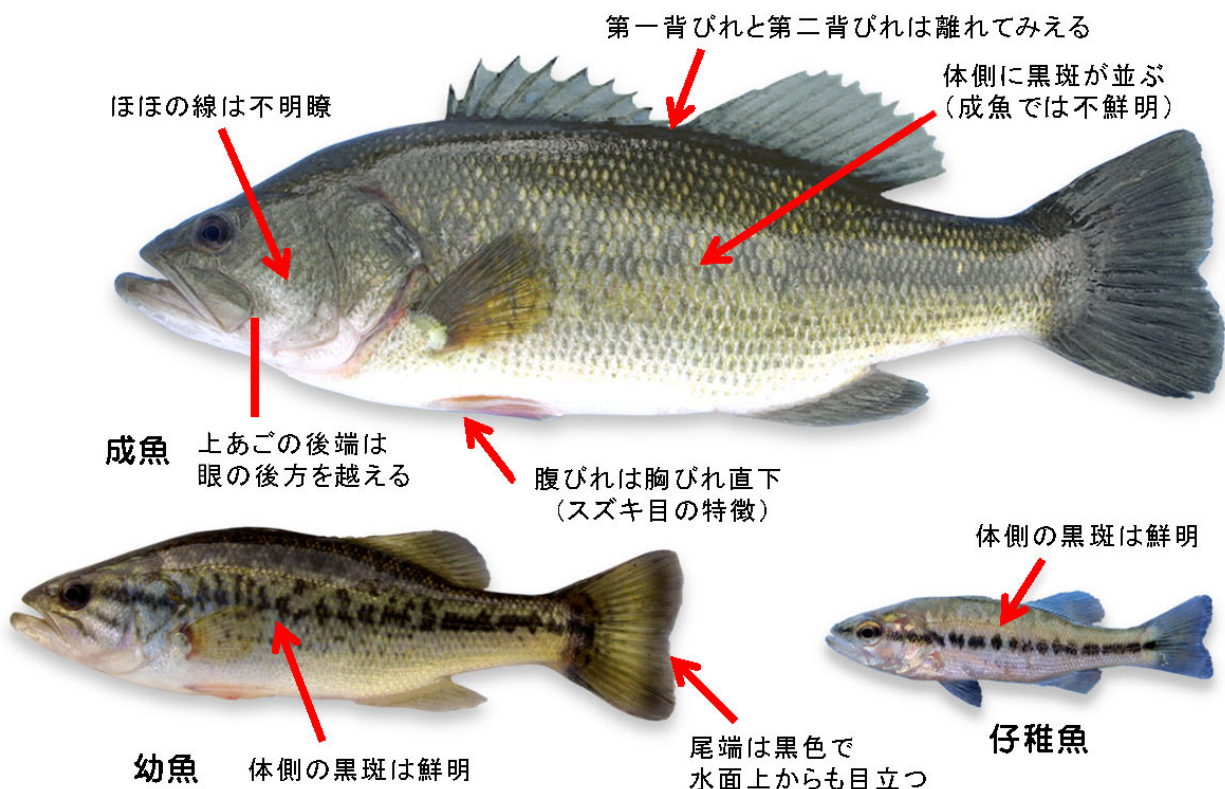
サンフィッシュ科



オクチバス

Micropterus salmoides

サンフィッシュ科



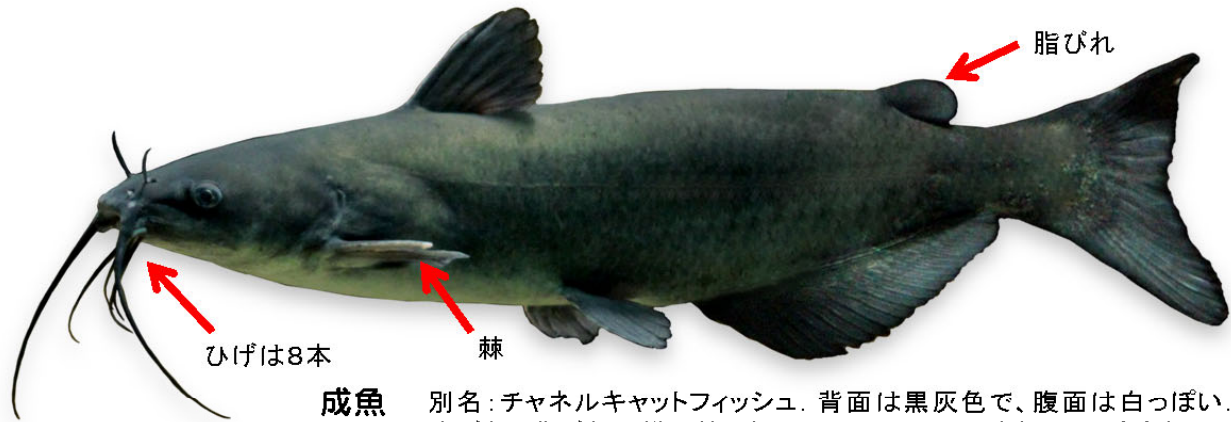
【チャネルキャットフィッシュ（アメリカナマズ）の見分け方】

※チャネルキャットフィッシュと間違いやすいギギの特徴も付けています。

アメリカナマズ

Ictalurus punctatus

アメリカナマズ科



成魚

別名：チャネルキャットフィッシュ。背面は黒灰色で、腹面は白っぽい。胸びれ、背びれに鋭い棘。全長 60～70cm。1mを超えることもある



幼魚

体は銀白色で黒点が散在する
(画像提供 さいたま水族館)



【間違いやすい種類】ギギ(成魚)

体色は黄色みを帯びた黒色。最大 40cm 程度

出典：全国内水面漁業協同組合連合会資料

【ブラントラウトの見分け方】※間違いやすい魚の情報もあります

長野県版外来種対策ハンドブック 対策に取り組みたい外来種⑫

ブラントラウト

目 科 名：サケ目サケ科
学 名：Salmo trutta
原産地域：ヨーロッパ～西アジア

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来魚の減少

- ・在来種を食べて駆逐
- ・エサをめぐる競争、交雑により在来魚を減らす
- ・生態が似たイワナやヤマメと競合・交雑する

産 業：漁業への被害

- ・水産重要種であるイワナ、ヤマメ、アマゴ、カジカ、ウグイなどを食べる



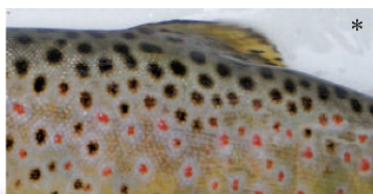
イワナとの交雑個体

3～4年で全長 20～50cm
(全長 100cm に育つこともある)

【成 魚】



背面はやや緑がかった褐色、腹は銀白色



大きな黒い斑点、白や青色で縁取られた赤朱色の大きな斑点が散在

稚魚(上)と幼魚(下)



ニジマスに似るが虹色の縦縞がない

【幼魚】



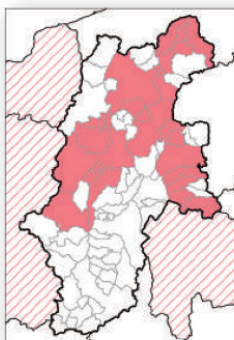
【どこまで拡がっているか】

長野県では

- ・千曲川、犀川の本支流
(梓湖や上高地など梓川上流域を含む)
- ・松本盆地の河川や幹線水路
- ・木曽町の末川

全国では

- ・1877～1926年に米国から輸入した、カワマスやニジマスの卵に混入
- ・1980年に北海道の新冠ダムで初記録
- ・北海道、秋田、栃木(中禅寺湖)、神奈川県(芦ノ湖)、山梨、富山、岐阜に分布



2019年現在
■ 定着 ■ 一部地域に定着

【生息場所・食べ物】

- ・水温が低く(20℃以下)、酸素が豊富な河川や湖沼に生息
- ・川幅が広く水深のある河川を好み、岩や倒木の陰に潜む
- ・海に出るものもいる
- ・幼魚は、水生昆虫や水面に落下してくる昆虫が主食
- ・成長すると魚が主食になる
- ・シロザケやサクラマスの稚魚、スナヤツメ類、ザリガニ類を食べる事例がある

【新しい品種への活用】

ブラントラウトは、適切な管理のもと以下のように、産業に活用されています。
・「信州サーモン」の親魚・・・信州サーモンは、ニジマスとブラントラウトを交配したものです。※生態系保全および品質維持のため、信州サーモンは卵をつくらない三倍体となっています。

【間違わないで！】

ニジマス (外来種)



イワナ (在来種)

※写真は幼魚



カワマス (外来種)



ヤマメ (在来種)



イワナ×ブラントラウト(交雑種)



アマゴ (在来種)



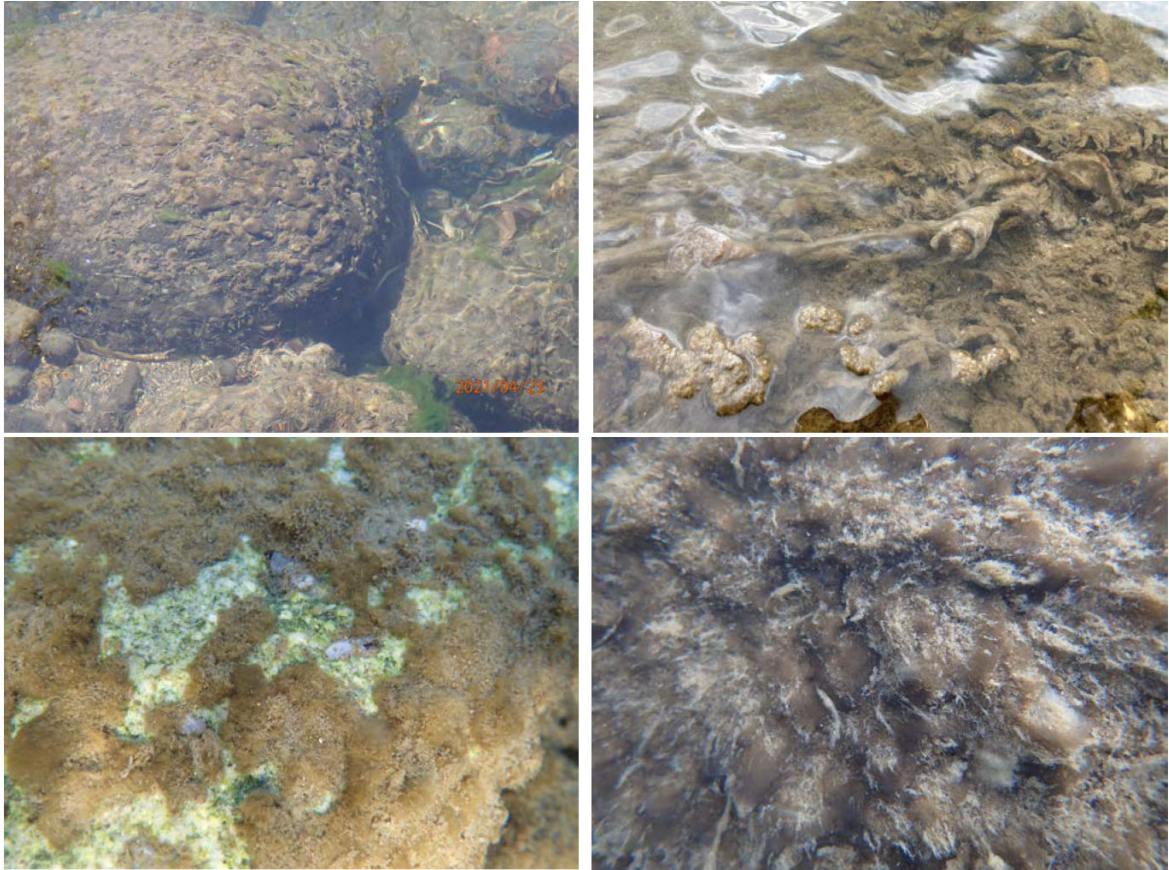
- ・同属の在来種はいないが、サケ科魚類(イワナ、ヤマメ、アマゴ)と似ている
- ・外来のサケ科魚類として、ニジマス、カワマス、レイクトラウト(国外移入)、イトウ(国内移入)がいる

写真提供 ※長野県環境保全研究所

出典：「長野県版外来種対策ハンドブック」(長野県、令和2年3月)

参考資料-3

【ミズワタクチビルケイソウの見分け方】



- ・ 外来生物と考えられるミズワタクチビルケイソウ（*Cymbella janischii*）は、0.1ミリ程度の微細な藻類です。繁茂するとミズワタのような群生をつくり、**魚類、水生昆虫の生息や生育だけでなく、仕掛けに藻がまとわりつくなど、釣り自体にも支障をきたすことが懸念**されます。
- ・ 令和3年時点で、東北、関東、中部、九州地方の複数の河川から、既に確認されています。
- ・ 外来藻類は、侵入河川で使用した釣り具やたも網、長靴、ウェーダーなどに付着するので、その後、殺藻せずに他河川で使用すると拡大させてしまいます。
- ・ これ以上拡大しないように、釣り人自身の対策も必要です。
川で使った道具はすべて殺藻しましょう！

令和4年3月
水産庁

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
全国内水面漁業協同組合連合会
長野県水産試験場

出典：「塩で防げ！外来藻類ミズワタクチビルケイソウ」（水産庁、国立研究開発法人水産研究・開発機構、全国内水面漁業協同組合連合会、長野県水産試験場、令和4年3月）